

今年度も理科授業(1年生69名)を実施し4年連続での開催となりました。



最初のテーマは「モノの区別」です。普段は意識しないモノの特徴を意識することで様々な区別が可能になるという説明の後、例題として、4つの材質の違うコップ(ガラス、プラスチック、紙、金属)を使って「どんなところで使われているか?」また、「それはなぜなのか?」を考えてもらい、身の回りの物質はそれぞれの性質にふさわしい使い方がされているということを理解してもらいました。

続いて、「プラスチックを調べよう」に入りました。見た目は同じプラスチック試験片4種類を用意し、水に浮かべて「密度」を調べる実験と試験片を燃焼させて、その「変化」を観察する2つの実験を行いました。

「プラスチックはどれも同じでは?」と予想していた生徒は、4つの試験片それぞれに燃え方の特徴があったり、浮かぶと思った試験片が水に沈む結果に驚いた様子でした。実験後には、観察できた事象(特徴)から試験片の樹脂名予測を行い、その解説とあわせて、プラスチックには多くの種類あり、それぞれに特徴があることを説明しました。



次は「プラスチック製品のつくり方」と「工場見学」です。

当社の主要製造方法の一つである射出成形を「チョコレートの作り方」に例えて説明し、イメージが掴めたところで、実際の「製品ができるまで」を工場見学で見てもらいました。工場見学では製造中の成型機を近くで見ながら、プラスチックの原料や製品サンプルにも触ってもらい普段は見ることの少ない製造現場をじっくりと見学してもらいました。



四国積水では、この活動を地域の方々と協力し、今後も継続していきたいと考えています。